

専念寺通信

専念寺通信



九月号 (NO. 109)

9月にはいつてからも時おり暑い日がありましたが、昼には蝉の声が、夜には秋の虫の音が聞かれるようになり、一年の三番目の季節、秋がたしかにやってまいりました。

☆秋のお彼岸

秋のお彼岸は9月23日の秋分の日をはさんで前後3日ずつ、1週間あります。彼岸のお中日は、秋分の日、昼の長さや夜の長さが同じになります。この日をさかいに少しずつ、日没が早くなり、夜は長くなり、やがて、冬がやってくるというわけです。お中日、太陽は真東から昇り、真西に沈みます。太陽の沈んでいく真西に、西方十萬億土の極楽浄土があるとされています。この極楽浄土を思い描き、煩惱に満ち満ちた、苦しみ悩みの多いこちら側から、安らかで穏やかなあちら側へ往生できまようにと祈る期間として、彼岸をとらえることができます。

また、お彼岸の一週間を、六波羅蜜と呼ばれる6つの徳目を実行に移すための、修養の期間と考えることもできます。六波羅蜜とは次の6つの徳目をいいます。

1. 布施 (ふせ) 与えること。財施 (ものを施す)・法施 (真理施す・無畏施 (恐怖を取り除き安心を与える))
2. 持戒 (じかい) 戒律を守ること。
3. 忍辱 (にんにく) 苦難に耐え忍ぶこと。

4. 精進 (しょうじん) 真実の道をたゆまず実践すること。
5. 禅定 (ぜんじょう) 精神を統一し安定させること。
6. 智慧 (ちえ) 真実の智慧を得ること。



六つの徳目を良く見ますと、そう簡単に実行できないもののように思えます。けれど、施すものはお金とは限らず、笑顔やちょっとした心がけでもよいのです。人間として天の大きな存在を信じ、それに恥じるようなことをしない、(とお子さんに教えたことはありませんか。私たちもそうしましょう。)、むやみにあらそわず、気持ちを集中させて落ち着いて歩んで行くこと、そして、本当のこととは何かを

いつも考えつづけること、このようにおきかえて行けば、この21世紀にも十分に通用する徳目だといえるのではないのでしょうか。喧嘩するのは簡単です。根気強く交流しようとするほうが骨がおれるし、時間もかかります。けれど、そうするべきなのです。私たち人間に与えられた智慧は「報復する」ための手段を考えるためではなく、「報復しない」ための方法を考えるために使うものなのです。これから、経済的にも(自殺者が年間3万人という私たちの国で)、また、未知のウイルスに対応できるのか、(感染者は増え続けています)、という点で医学的にも、世界的に厳しいできごとがさけられない日々になりそうです。このような時こそ、心をおだやかに保ち、気持ちをすんとからだの芯に落として、静かに過ごしましょう。弱い私たちのうえにある大いなるものに祈願し、軽率に争わないようにしましょう。何が真実なのか、いつにも増して、注意深く見て、考えましょう。みなさまの毎日がおだやかでありますように。

平成21年9月1日 大黒

